

地域の主体的行動が安全対策の近道です！

困難な課題を解決し計画を早期に実現するためには、地域ぐるみの取組が必要不可欠です。地元組織が中心となって、地域の方々が課題を共有できるように活動し、地域と行政がそれぞれの役割を果たしながら、互いに連携をして進めていくことが重要です。

地元組織が中心となって検討を行い、要望を整理して地域での合意形成を図ります。

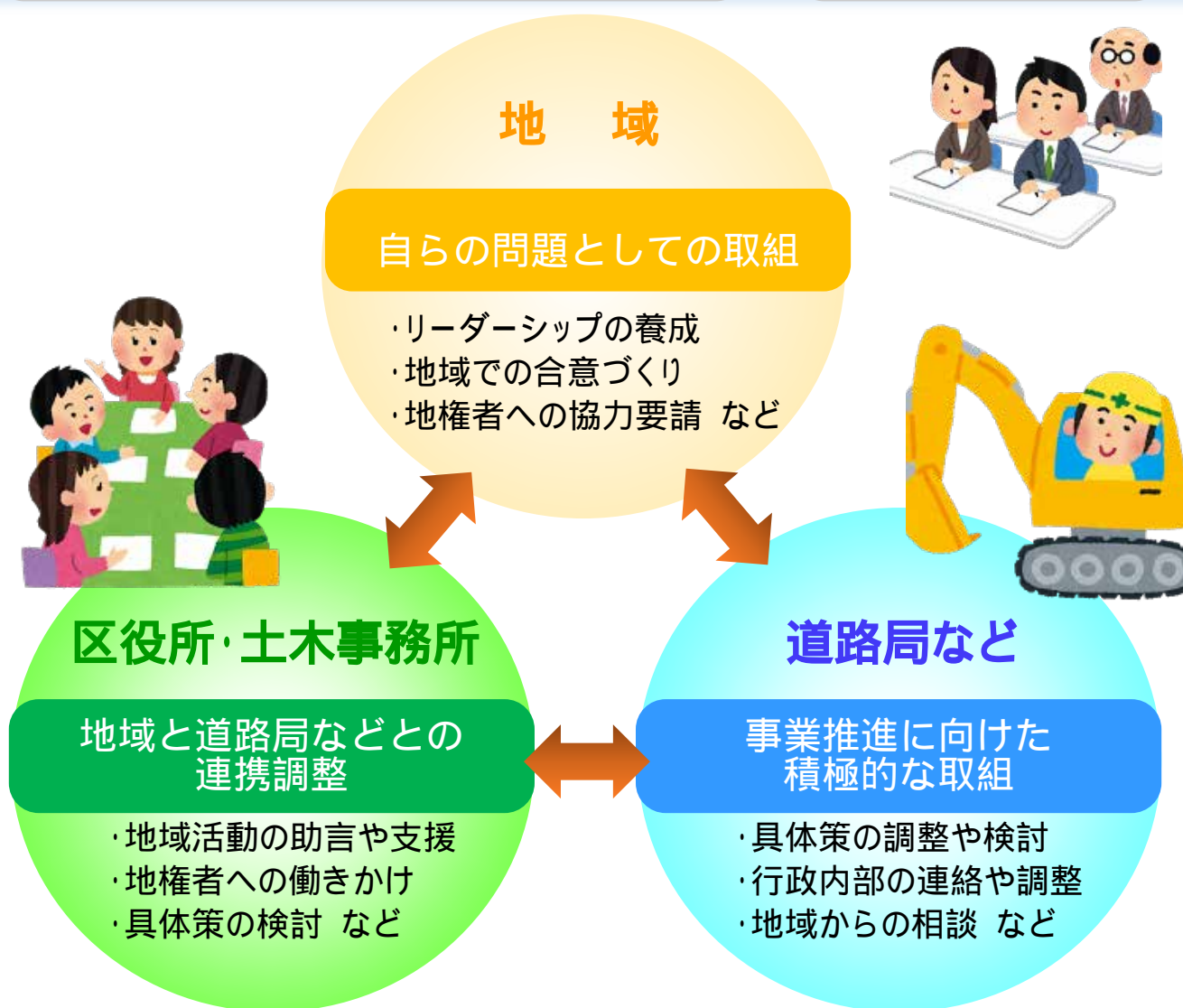
区役所や土木事務所などとの調整を受けて実現します。

現在の通学路が抱えている問題を明確にして、課題を共有する

地権者への協力要請
近隣者への説明など、
地域全体の合意を
取りまとめる。

連携

予算や事業順位などを調整し、地域と連携しながら通学路の整備に着手する。



あなたの行動が子どもたちを交通事故の危険から守る

～地域と行政による取組事例の紹介～



登下校中の小学生が巻き込まれる悲しい交通事故が全国で後を絶ちません。未来を担う子どもたちを交通事故の危険から守るため、横浜市道路局では通学路の安全対策に積極的に取り組んでいます。安全対策には歩道整備やあんしんカラーベルトなど様々な方策がありますが、対策実現のためには、地域の方々の熱意と行動が重要なポイントとなります。

今回、地域の皆様が通学路の安全対策に主体的に取り組む契機としていただくために、地域と行政が連携して安全対策を実現した事例紹介の動画及びリーフレットを作成しました。通学路の安全対策を更に促進するために、要望を出すに留まらず、地域ぐるみで課題解決に取り組んで頂けると幸いです。ぜひ、地域の皆様の力を貸してください！

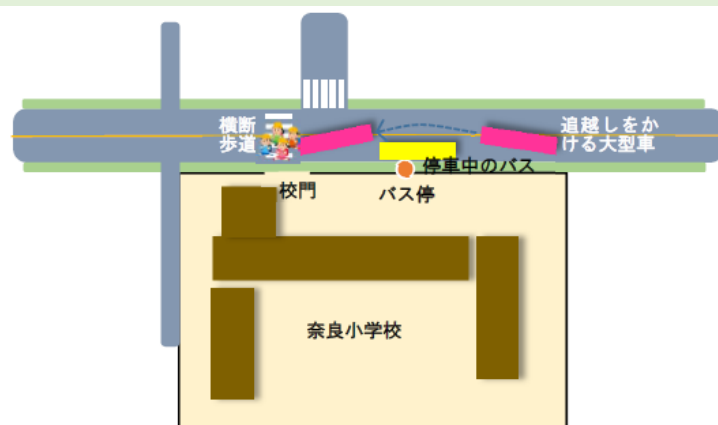
通学路の整備に関するご相談は、
最寄りの土木事務所・区役所、または、道路局施設課（電話 671-2785）まで

横浜市道路局



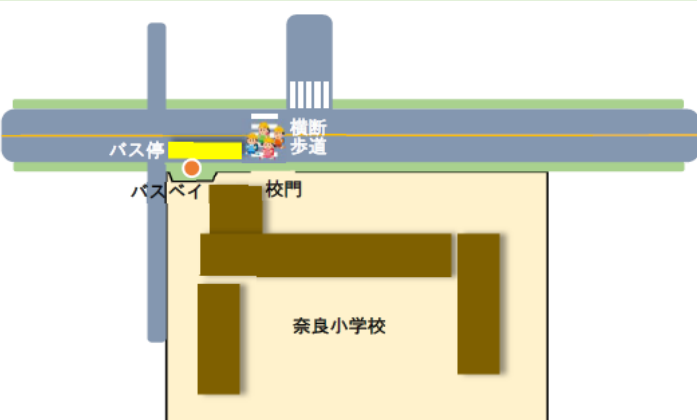
事例1 小田急学園奈良自治会(青葉区)

歩行者空間を確保しながらバス停の移設、
バスベイの設置で子どもたちの安全確保



課題

- ・奈良小学校校門前の横断歩道の手前にバス停があったため、バスが停車しているときに、バスを追い越す車が横断歩道を視認しづらい状態にありました。
- ・このバス停は、上り坂の途中にあるため、見通しが良くありませんでした。



対応策

- ・横断歩道を越えた、比較的坂道の勾配が緩やかな場所にバス停を移設し、横断歩道の見通しを改善しました。
- ・さらに、バスベイを設置して本線の車の流れを阻害しないようにしました。
- ・バスベイを設置する場所については、沿道の奈良小学校の敷地の一部を活用して歩道を整備し、安全な通学路になるように工夫をしました。

自治会が行ったのは

- ・バス停の移設と歩行者空間確保のため近隣住民のところに説明に行き、理解を得ました。
- ・住民の声をできるだけ多く自治会で拾い上げ、バス停移設で影響を受ける住民の方の了解を得るなど、住民の合意形成を図ったうえで行政に要望したことで、行政は納得して動くことができました。
- ・奈良小学校に用地の協力をあおぎ、行政がバス会社や警察と協議して工事を実施しました。

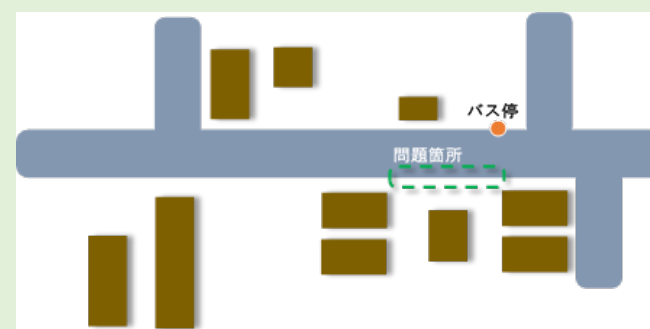
元自治会長のコメント

・地域の方には様々な意見があり、「改善を要望しても無理じゃないか」とか、「行政はやってくれないだろう」という意見もあったが、何もやらなければ先に進まないで、(移設先にも直接説明して理解を得るなどした結果として)行政に要望書を正式に提出しました。



事例2 東本郷まちづくり協議会(緑区)

歩道をひろげ、歩行者の安全を確保



課題

- ・歩道状の空地が車道沿いにありますが、狭く斜めになっていて、雨や風の日には歩きづらい状態でした。
- ・交通量が激しい道路なのに、歩道状の空地を上がった、降りたりしないと通行できないので危険な状況でした。



整備後

対応策

- ・土手になっている部分に 斜面を覆う崩壊防止柵を設置し、土手が崩れ落ちるのを防止しました。
- ・歩道状の空地部分については、地権者から無償で借地し、幅員が約1mのアスファルト歩道として、平成27年度に整備しました。



整備前

自治会が行ったのは

- ・地域住民がまち歩きを行って課題を把握するとともに、住民と行政がさまざまな意見交換を行って、よりよいまちづくりの方向性を見出しました。
- ・まちづくり協議会が中心となって、土地の地権者に必要性を説明し、無償で借りることに協力を得ました。

元自治会長のコメント

・これまでも、問題として取り上げた人や交渉をした人もいたが、そこであきらめないことが重要です。

・知恵を絞って小さいものをこつこつ積み上げていく事が必要で、まず地元が動かないとどうにもなりません。



事例紹介の動画はインターネットでご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=0Sq_cISNNHI 又は Youtube の「通学路 事例 横浜市」で検索することもできます。

事例 3 洋光台まちづくり協議会(磯子区)

学校と連携して、広い歩道の整備を行い、歩行者の安全を確保

【対応前】



課題

- ・通行する児童が多いにもかかわらず、学校横は狭い歩行者空間しかなく、段差もあるため、歩きにくい状況でした。児童が車道側にはみ出すこともありました。
- ・学校横以外の箇所では、民有地を使って広く歩行者空間を確保できていますが、小学校前だけ歩道が無い状態でした。

【対応後】



対応策

- ・小学校用地と道路区域を一体的に使って歩行者空間を確保しました。段差を解消し、横断防止柵も設置したため、歩きやすく安全な歩道を整備することができました。
- ・まちづくり協議会で洋光台地域全域での優先順位付けを行い、洋光台第一小学校用地を利用した歩行者空間の整備をスクールゾーン対策協議会として要望しました。

自治会が行ったのは

- ・まちづくり協議会では、行政ができることの範囲で地域全体のバランスをみながら、安全対策に優先順位を付け、小学校へも協力を要請しました。
- ・地域全体の理解を得るために、工事をする道路を利用する学区外の町内会でも説明を行い歩道整備工事が円滑に実施できるよう協力しました。

元交通安全部会長のコメント

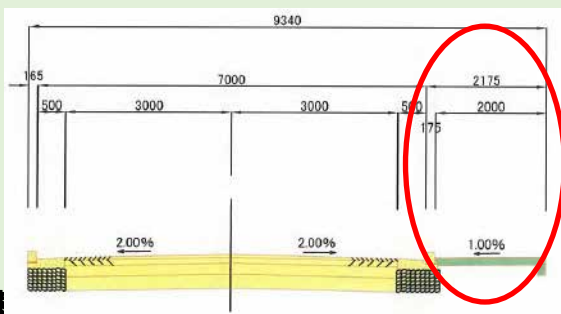
- ・行政ができないようなことを要望しても実現はできないので、予算など考えてできる範囲のものを整理して要望しています。
- ・特定の地域に集中するのではなく、必要性を考えて順番にやって行くことが地域のために重要だと思います。
- ・学区以外の方々も道路を利用するので、学区外の町内会でも説明をしました。その結果、工事中の通行について、苦情が寄せられることはありませんでした。



事例4 中村町内会(泉区)

地域が地権者に協力を呼び掛けて、用地取得をアシスト！！
新しく歩道を整備して歩行者の安全を確保

【現況イメージ】



課題

- ・過去 10 年間で 14 件の人身事故が発生している危険な路線です。
- ・約 250mの通学路部分は、路線全体にカラーベルトがありますが、交通量も多く幅員も狭いため、歩行者側にはみ出して通行する車が多数あります。

対応策

- ・これまでスクールゾーン対策協議会で検討し、対策を実施してきましたが、安全上の課題を解決できずにいました。そこで、用地を取得し、2mの歩道を整備して抜本的に対策することとしました。
- ・地域の方々が歩道整備の必要性を地権者に働きかけ協力を求めたことで、合意形成をスムーズに進めることができました。地域の後押しを受けたことで、行政は、平成 28 年度からの事業化を実現できました。

自治会が行ったのは

- ・スクールゾーン対策協議会で議論し、ソフト的な対策なども検討した上で、歩道整備の取組を最優先に実施することを決めました。さらに、地域の役割として「地元町内会の現会長・前会長・前々会長で地権者に協力を依頼してくる。」ことを表明しました。
- ・実際に、歩道整備を進めるにあたって、地域が歩道整備の必要性を地権者に働きかけ、事業への協力を求めました。

事例紹介の動画はインターネットでご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=OSq_cISNNHI&feature=youtu.be

又は Youtube の「通学路 事例 横浜市」で検索することもできます。

